



チベット体操インストラクター 鈴木 れいこさん

鈴木さんは、神奈川県横浜市から2011年に札幌市へ避難されました。北海道へ来てから二度、引っ越しをされ、現在は日高町に住んでいます。

「初めは、震災後、どうにもこうにも体調が優れず『避難する』というよりも療養しなければ…という感じでした。もちろん、原発事故との因果関係は定かではありませんでしたが、思い切って環境を変えてみるしかないと思い、2011年7月7日に下見のため札幌を訪れました。

新千歳空港に降りた瞬間から空気が違う！と感激して、札幌へ向かうJRの車窓から見る景色は広くて素晴らしくて、観光客のようにわくわくしてしまいました。体調もすっかり良くなってしまって。もうすっかり北海道に住む気満々でした(笑)。

その時の滞在は1週間ほどです。支援団体や避難者の方々と交流を交えながら情報を得て過ごしました。

その1週間でふと考えたのです。私は娘と横浜で二人暮らしをしていましたが、どちらかという都会・夜型の生活。札幌も24時間スーパーがすぐ近くにあり、少し足を延ばせば繁華街が広がります。ここに住んでも、私たちの生活環境は横浜と変わらないので

はないかと思いました。せっかく北海道へ来たのなら、列車の窓から見たあのわくわくする景色の中で暮らしたいと考え始めた時に、『山村留学制度』を知りました。帰る頃には山村留学のことで頭がいっぱいで、札幌に住むという意識はなくなっていました。」

鈴木さんは横浜に帰ってから、インターネットで北海道内の山村留学を実施している市町村を調べ、夏休みに下見に行けるようアポイントをとったそうです。

「条件など考慮して何ヶ所かに絞り、夏休みには車でフェリーに乗り、北海道へ渡りました。何ヶ所か実際に見て、担当の方にいろいろとお話を伺い、空港へのアクセスなど様々なことを考慮して、平取に決めました。札幌から平取へ引っ越し、山村留学を開始したのが2011年9月です。」

平取では1年半過ごした鈴木さん。2013年4月に日高町へ移住しました。

「平取では、まだまだ自分の意識も甘く、



虹が現れたご自宅裏の牧草場で娘さんとナルくんのお散歩。

幸せに生きるということ

土地の人とのコミュニケーションに行き詰ってしまいました。おれない自分がいればよかったのですが、あの頃は経験も足りず、精神的にも不安定で周囲の状況に振り回され、頑張りが空回りでした。その結果、娘に悲しい思いもさせてしまいました。このままだと、何のために北海道へ来たのかわからなくなってしまうと思い、悩み考えた末、山村留学をやめて他の土地へ移住者として引っ越すことにしました。山村留学中に出会った方々との縁もあり、日高町に賃貸物件がないか尋ねたところ、『1軒だけあるよ』と紹介されたのが現在の住居なんです。

考えてみると2011年の七夕の日には、日高に住んでいる自分なんて想像もできませんでした。それが今ではいつでも満天の星空ですよ。恥ずかしい話ですが、震災を経験してからです。今、自分は何をすべきか、どう生きれば幸せなのか、娘にとって何が幸せなのか、私達らしきとは何か、家族とは、友人とは…と真正面から向き合って真剣に考えるようになったのは。田舎暮らしが嫌で都会にあこがれて上京したものの、振り返ると将来や仕事、人間関係や子育てなどの未来に対していつも不安でした。

日高の大自然は美しいとともに本当に厳しく、雇用も少ないので『みんなおいでよ』と気軽に言える場所ではありません。それでも私も娘も、今まで生きている中で一番



アイヌ民族博物館の方々ともすっかり親しくなった鈴木さん親子。

『ころ』が安心しています。横浜にいた時のようなきらびやかさも便利なものもありますが、ここでしか得られないもの、お金に変えられないものがたくさんあって、確実に幸せを感じることができています。

単なる腰掛ではなく、この土地で暮らすということにしっかりと根を張って、自分を見失わずに地域の方々と交流をするようになってからは、コミュニケーションで行き詰ることはなくなりました。北海道内での人脈も増え、将来的な青写真も少しずつですが浮かんできたところです。

札幌でのチベット体操レッスンも今シーズンは終了しましたが、来春、再開するときにはより多くの人に来てもらえるように工夫したいと思います。

とにかく、今が一番楽しいし、生きているって実感できてとても幸せです。私たち親子を支えてくださっているすべての方に心より感謝しています。」

スッと伸びた背筋と満面の笑みがとても印象的な鈴木さんでした。